

	<p>第253号 2010年4月1日 発行 富山市内幸町3-22管谷ビル4階 新日本スポーツ連盟 富山県連盟 電話FAX 076-441-0541 発行責任者 林 憲彰</p>
--	--

新日本スポーツ連盟第29回定期全国総会に参加して

スポーツ連盟とやま副理事長（富山ハイキングクラブ） 山村 勇

3月13日（土）～14日（日）に開催された全国総会に、富山県の代議員の一人として林 理事長とともに参加しました。総会スローガンは「スポーツの新しい芽をはぐくもう～柔軟に大胆にスポーツ活動の「組織化を」でした。

第27期からの目標だった「10万人の連盟づくり」は、4316クラブ・57919人（総会時現勢）と「微増」にとどまり、実現できなかった。しかしこの間の組織拡大運動は多くの貴重な経験と可能性、そして課題をも明確にしました。このことを糧に今後2年間、2011年まですべてのスポーツのナショナルセンターとしての役割を果たしていくことになるわけである。厳しい社会情勢が深刻なスポーツ条件の悪化に拍車をかけている昨今、スポーツ連盟の存在はますます大切になってきているのではなからうか。

今度の総会では新しい試みとして、都道府県連盟・全国種目組織・全国連盟が相互に相

談（交流）しあう時間が設けられました。まず種目組織から都道府県連盟へ空白克服相談会、次に都道府県連盟から種目組織へチャレンジ相談会、これらと同時進行で組織運営相談会（全国連盟役員が担当）が行われた。どんな展開になるか予想がつかないとは、当初全国理事会のコメントでしたが、結果として2～3ケースのチャレンジ約束が成立したようです。富山県へは全国水泳協、野球、バレーボール、卓球、テニス、それぞれの種目組織からオファーがあり、連携強化・空白克服の要請を受けました。また林 理事長へはサッカー協から「フット・ア・セット」（フランス式7人制サッカー）に取り組みないかとの打診がきているとのこと。いずれの場合も中心になって活動してくれる人間が必要（現状以上の掛け持ちは無理）ということで今日、明日からの取り組みはできないという結論に落ち着いた。全国的にも同様だと思うが、現活動家の高齢化は否定しようもなく、若い人たちへの働きかけ、取り込みが急務なのは明白です。

この総会で学んだ全国各地・異なる種目の創意・工夫を自分たちの活動に少しでも生かしていけたら…と思う。

そしてもうひとつ、県連盟理事会で話題になった「スポーツ科学研究所」具体化構想について総会でも代議員から指摘がありまし



た。いわく財政基盤があまりに脆弱ではないか（年間経費 336 万円を連盟からの 60 万円の拠出以外はすべて募金に頼る）と。全国理事 青沼氏の研究所設立に向けての思い——国民スポーツの推進を理論的にバックアップするためのもの——という点は理解できないわけではないけれどもやはり諸手をあげて賛

成とはいかない。

総会まとめて和食理事長がこのことにふれ、全体の合意なしには絶対に前すすみにはしない（全国理事会が勝手に設立させることはない）とのことだった。慎重な取り組みを全国連盟には望みたい。

パークゴルフ交流会開催

実施期日：5月22日（土）午後1時30分から（集合時刻午後1時）

実施会場：射水市下村パークゴルフ場（とねりこコースA・B）

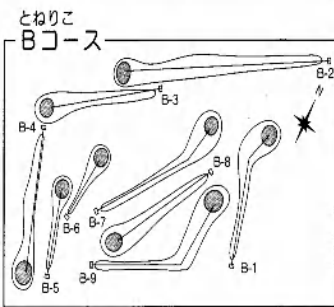
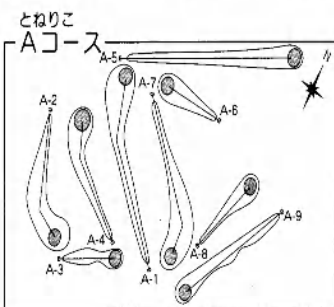
参加予定人数：20人程度

ゲーム内容：27ホール（天候により18ホールにする場合もあります）。

参加料：400円（コースの借用料）+500円（賞品代+保険）



とねりこコース A・B



会場案内図



カナディアンロッキー&バンフーを滑る

= 10. 2. 12 ~ 20 =

シルバスター 谷口 俊政

恒例の海外スキー 今回は新たにオーロラ鑑賞も加えバリエーションに豊んだものとした。

イエロウナイフ (オーロラ鑑賞の基地) 北緯60度

12日早朝小松発 成田経由機中泊・・・

目が覚めたらバンクーバーの筈だったので、イエロウナイフの宿に入ったのは 何と 出発日 12 日の夕方 7 時過ぎ ??

時差 18 時間 (日本より遅い) とか 頭と体調がこんがらかった一日となった。

こんがらかったもう一つは、オーロラの綺麗な舞いを・・・

と大きな期待を持って臨んだのに、見えたのは「空中に舞う雲」?の姿 ??? カメラを通すと想像していたとおりのオーロラの舞い 大気中の出来事なので「慣れない」肉眼

カナディアンロッキーのスキー場 サンシャイン

車窓から見るカナディアンロッキーの岩峰と松の緑の圧倒され

スキー場のイメージは全く湧かない この岩峰のどこに・・・

スキー場 やはりリフトとゴンドラもある しかも目指すは頂上まで続いている。

樹林帯を越えた山頂付近は、それにそびえるスキー場だった。

レイクルイーズ スキー場

バンフーからバスで 1 時間 そこに行くまでの車窓の眺めが又すばらしい。連続するロッキーの岩峰 カメラの覗き放し

もう滑らなくても良いや ! 的な気分にも

4Km 余りのゴンドラ 更に「Tバーリフト」様なロープにしがみついて山頂へ、まずはカメラだ! 何一つ遮るモノのない山頂 天候は「まれに見る」絶好調 周りの山々・記念撮影

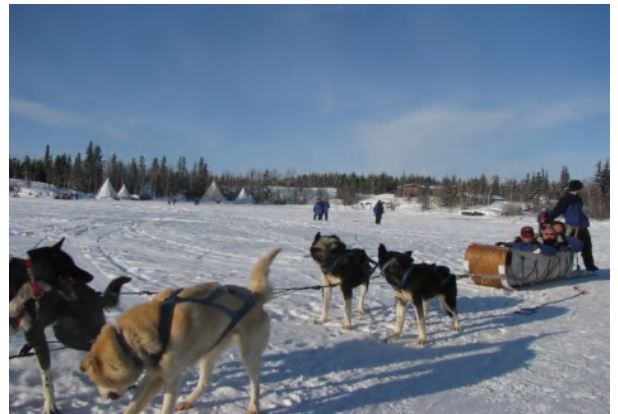
あっと言う間の時間が過ぎた感じ・

食べられないランチサービス

今回のツアーは 主催会社フエロウ からランチサービスが 2 回

では直ぐ鑑賞出来ないことをはじめて知った。

それでも2晩も続けてお目にかかれてまずは大満足のスタートに



降った雪は、軽くて乾燥していて、風に飛ばされて日本のように積もらない・・・常時青氷の上をぶっ飛ばす状態 無理な姿勢の連続で疲れも速い感じ。すべてのコースを 1 ~2 本ずつ

あっと言う間この日が過ぎた広大なグレンデを堪能した。

グレンデは、大きく分けて3面 正面は、かつてのワールドカップ男子の滑降コースとか 山頂付近は樹林帯を過ぎているが、中間からは濃緑の松林の中 途中の休みを入れながら滑ったが、最後は4. 2Km のぶっ飛ばしのサービス ? も

裏面は、圧雪グレンデと言うより 自然に任せた新雪グレンデに近いもの 途中ビデオ撮影なども交えながら、リフト乗り場までぶっ飛ばしの一本こ。

(と夜食1回) が提供される大サービスの内容となっていた。お昼は 超豪華版? ビーフステーキにサラダ パスタ

まさに食べ放題だが こちらは提供される量を減らすのに一



苦労

黙って一人前をもらうと どれも大皿からこぼれ落ちそうな
ポリウム とうてい食べきれぬものでない。

打上は やはり日本食 杉乃家で

慣れない 洋食は体調を崩す 打上はやはり日本食レストラ
ン

杉乃家で お刺身定食・ご飯味噌汁付き 追加は漬物セッ
ト そして日本酒の焼酎のお湯割り 言うこと無し。

何よりも日本語で自由に通じるところがよい。

第 2 9 期 3 月 度 (第 5 回) 理 事 会 議 事 録

2010/ 3/16

出席 林・山村・荒井・田村・青山

議題 1. 常願寺川マラソン・ジョギング大会の準備について

- ・青山理事より準備状況を確認する。16日現在で11名の申込 20名以上をまです。
その後 17日現在で19名になった。
- ・運営ボランティアは8時現地集合。現在林・荒井・山村各理事の了解を得ているが引き続き呼びかける。
- ・ゼッケンの印刷は林理事長にお願いし、その他の物は意見を出し合い 青山で準備することにした。
又、保険は全国連盟の保険を活用することになりました。
- ・終了後の11時頃から田中寿美子さんによる30~40分程度の「ランニング・クリニック」を行う
ことも決まりました。

議題 2. 全国総会の報告

- ・林理事長の感想：国際的なスポーツ理念の到達を示す資料などが大変充実していた。組織は10万名を目標してい
るが、全国の努力で微増ではあるが前進している。その要因の1つにこれまで卓球が行ってきた出前大会が他の種
目でも行われるようになった。スポーツ科学研究所については、議論が深まっていないので引き続き検討してい
くが、社会科学的な視点から文化としてのスポーツの広がり
を研究することの必要性が確認された。詳しい報告は4月号の「スポーツなかま」にのせます。
- ・山村副理事長：何回か参加していますが、今回初めて組織交流の時間が取られ、林さんはウォーキングに参加され
たので、残っていると卓球・野球・登山・ミックスバレー・水泳・ソフトテニスなどの
種目から取り組みや要請があり、それは懇親会にも引き継がれ大変良かったと感じました。
又、種目指導員による運営などの相談コーナーもあり、結語で実現可能性も見出せたかと報告あった。
「スポーツのひろば」の普及にも言及があり、大会運営者や参加者に薦める大切さを感じました。